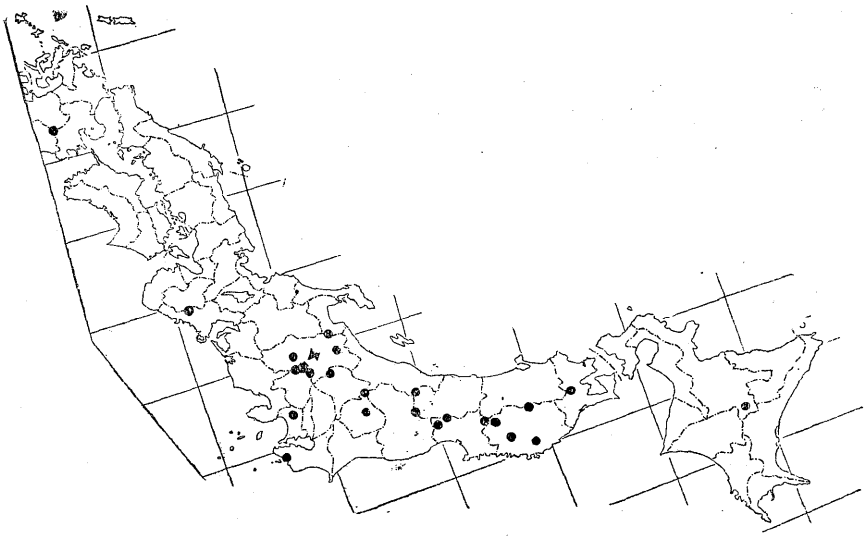
○ミヤマフタバランの2品種（正宗厳敬・里見信生） Genkei MASAMUNE and Nobuo SATOMI: On two new forms of *Listera nipponica*

ミヤマフタバランの分布を図示した。この蘭は通常，北海道・本州（北中部）の高山針葉樹林中に生育している。大井博士によれば，九州祖母山にあるという〔日本植物誌 p. 365 (1953)〕。四国では未だ見出されていないようだが，剣山・石鎚山等の高山針葉樹林内で発見されるものと思われる。清澄山の産は桧山氏が述べて居られる如く疑わしい〔千葉県植物誌基礎資料 **3**: 28 (1952)〕。



ミヤマフタバランの分布図

筆者の一人里見は1956年夏，信州浅間山に登り，ミスズラン *Androcorys japonensis* F. Maekawa を得たが〔北陸の植物，**5**: 116 (1956)〕，その時下記のミヤマフタバランの2品種を採集した。一は全体緑色で花も黄緑色のものであり，他は葉に白色の斑が入つた品である。夫々ミドリミヤマフタバラン，フイリミヤマフタバランと称することにする。又，対生葉がずれているものを一本採集したが，これは畸型的なものと考えるので名前を与えない事にする。フタバランにも同様の事実があつてキソコマフタバラン (*Listera cordata* R. Brown var. *japonica* Hara form. *appendiculata* Honda) と称するものがそれである。（金沢大学理学部植物分類学研究室）

Listera nipponica Makino forma **viridis** Masamune et Satomi, form. nov. Planta toto viridis. Caulis et flores non purpurascentes.—Hab. Honshu: in monte Asama, Prov. Shinano (N. Satomi, Aug. 3, 1956—Typus in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa).

forma **albo-variegata** Masamune et Satomi, form. nov. Folia ad medio albo-variegata.—Hab. Honshu: in monte Asama, Prov. Shinano (N. Satomi, Aug. 3, 1956—Typus in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa).

○鳳来寺山で採集したアカイカタケ（佐藤正己） Masami SATO: Notes on *Aseroe rubra* La Billard. collected on Mt. Horaiji, Prov. Mikawa, middle Honshu, Japan

三河の鳳来寺山は，熱帯性の蘚苔類や地衣類を産するので有名な山であるが，今夏ここで熱帯性の珍菌アカイカタケを採集したことを報告する。8 月 13 日の昼過に地衣類の採集を終り，頂上の宿院を引上げようとしたら，すぐ上手にある貸バンガローの掃除をしていた娘さんが，こんな気味の悪いものが床下にありました，と恐る恐る割箸でつまんで紙にとつた 1 個のアカイカタケと，その菌蕾らしい未開のもの 1 個とを持つてきた。その外形は，本誌 27 巻 4 号の表紙カツト図案となつた熱海市伊豆山足川町 10 で原寛博士が 1948 年 6 月 26 日に採集されたものとそつくりであつた。

アカイカタケは日本では 1938 年 6 月 20 日に福岡県朝倉郡宝珠山村で仲道猛男氏が始めて採集し，その後は上記の原寛博士の採集品もあり，先般の国立科学博物館のおしば展には宮中生物学御研究所からの標本（1953 年 8 月採集，栃木県那須産）も陳列されたが，日本ではまだまだ珍品と云つてよいだろう。私はこの標本を早速カラーフィルムで撮影してからホルマリン漬にし，菌蕾の方はそのまま大切に持ち帰り，植木鉢にいれて灌水し，恐らく世界でも類例のないアカイカタケの菌蕾からの連続生長記録をカラーフィルムで撮影しようと，8 月 14 日水戸に帰着して以来連日見守つた。数日たつてもほとんど変化は認められなかつたので，半ばあきらめたところ，20 日の夜から 21 日の早朝の間に菌蕾は破れ，柄がのび，頂上の盤状部からは腕を放射状に出していたのを発見した。現地で自然に展開したものに較べれば，色も淡く，全体としていじけたような感じであつたが，やはりアカイカタケであつた。（茨城大学文理学部）